

平成31年度 府立北稜高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

平成31年4月22日

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>本校の教育テーマ「国際理解教育」「環境教育」「表現活動」を相互に関連づけて推進し、グローバルな視野と主体的に生きる力を有する生徒を育成する</p>	<p>■公開授業の回数を増やして授業改善に努めたが、家庭学習時間数の増加にはつながっていない。生徒の学習意欲向上につながる授業改善を一層進める必要がある。</p> <p>■中堅私立大学の合格状況は改善したが、国公立大学及び難関私立大学については、やや厳しい結果であった。入学時から学習習慣の定着の指導に力を入れ、学力向上を図る必要がある。就職は100%の内定を得ることができた。</p> <p>■「国際理解教育」「環境教育」「表現活動」の関連性を高めた取組を「総合的な学習の時間」を使って実施することができた。環境委員による環境保全活動の取組と教職員によるKES認証の更新をもとに継続することができた。</p> <p>■広報は、ツイッターやホームページ、毎月のお知らせマガジンの発行により積極的に展開できた。しかしながら、生徒募集が厳しい現状を踏まえ、より魅力をアピールする方策を進める必要がある。</p> <p>■部活動指導は、日々の指導に加え、部集會を定期的に開いて人間性と社会性の育成、目標に向け努力する気持ちを大事にする指導に努めた。</p> <p>■京都府自転車安全利用推進員は取組3年で900人を超える生徒が受講し、京都府より「自転車安全利用取組優良モデル校」の認定を受け、鍵1グランプリにおいても第1位の表彰を受けることができたが、自転車の安全運転については継続してさら注意喚起を図る必要がある。</p>	<p>【目標】 希望進路が実現できるよう学力を向上させる。特別活動と部活動の充実を図ることで自主性と社会性、規範意識を養う。コミュニティースクールとしてこれまで以上に地域から愛され信頼される学校づくりを行い、3つの教育テーマ「国際理解教育」「環境教育」「表現活動」を相互に関連させた教育活動を充実させる。</p> <p>【項目】 1 学習指導 (1)新学習指導要領の改訂ポイントを踏まえ、各教科で主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の研究と実践を行う。 (2)教員相互の授業参観を行うことで資質能力の向上を図るとともに生徒の学力向上につなげる。 (3)生徒の学習意欲を高め理解を深めさせるために、ICTを活用した授業の開発に取り組む。</p> <p>2 進路指導と生徒指導 (1)希望進路の実現に向け、一人ひとりに応じたキャリア教育を推進する。 (2)北稜祭等の活動を通して生徒の自主性を養う。 (3)挨拶や身だしなみ、言葉遣い、スマートフォン使用ルールの指導に力を入れ規範意識を醸成する。</p> <p>3 部活動指導 (1)学習と部活動を両立させる指導に力を入れる。 (2)部活動員に学校生活のリーダーとしての自覚をさせ、あらゆる活動に意欲的に取り組ませる。</p> <p>4 魅力ある学校づくりと情報発信 (1)生徒が協働して課題解決型学習に取り組み、自ら考えたことを校外に発信する機会を設ける。 (2)学校の日常の取組が保護者や地域によりよく分かるように、ホームページやツイッターをさらに充実させる。</p> <p>5 地域との連携 (1)学校運営協議会を立ち上げ、コミュニティースクールとして地域の信頼を一層得るための努力を続ける。 (2)近隣の大学や研究機関、小・中学校と学習や文化、スポーツの交流を行い連携の強化を図る。</p> <p>□</p>

評価領域(分掌領域)	重点目標	具体的方策	評価基準	評価		進捗状況(成果と課題)
				項目	総合	
教育課程 学習指導	本校の経営方針に基づいた教育課程を検証する	「学校経営計画」「学校経営の方針」を踏まえ、平成31年度入学生教育課程を検証しながら、来るべき指導要領改正(令和4年4月)を見据えたコース編成・教育課程の研究・提案を行う。	教科主任会議、研修会を通して本校の直面する現状を周知し、教育課程やコース編成について改革の機運を学校全体に広げることができたか。			
	学力向上に向けての授業改善と基礎学力充実を図る	授業参観・公開授業・研究授業を計画・実施し、授業を客観的に見直す機会とするとともに、年2回に授業評価を実施して授業改善につなげる。	授業参観・公開授業・研究授業を実施し、多くの保護者・関係者・教員が参加したか。その後、教科会議等を利用した合評会を行い授業改善につなげられたか。 生徒による評価アンケートの結果が授業改善の資料として有効に機能したか。			
		よりよい学習環境を維持するよう、教科担当と担任が密にコミュニケーションをとりながら組織的に指導を行えるように、シラバスの改善や研修を通して個々の教員が持つ知識や経験を共有できる環境を整備する。	授業態度等調査及び欠課過多生徒の報告が教科担当と担任をつなぐ資料として機能し指導に活用できたか。 シラバスが教科指導のツールとして機能し、生徒の計画的な学習習慣の定着や評価に対する意識を喚起できたか。			
		考査前補充および成績不振者に対する長期休業前の一斉指導を実施し、学習方法を含めた基礎学力の充実を図り、進級・卒業に向けた自覚を促す。	学期ごとの成績不振者数を前年度に比べて減少させることができたか。			-
特色推進 広報活動	国際交流に関する取り組みを充実させる	マレーシア研修旅行での研修内容をより充実させる。 マレーシアデーを始め海外から来校する学生との交流を積極的に進める。	各教科で事前学習に取り組むことができたか。事前学習の内容を実際の行程に即したものにできたか。 できるだけ多くの生徒が交流行事に参加できたか。内容に環境や地域連携などを取り入れられたか。			
	環境教育に生徒が主体的に取り組める内容にする	環境委員を中心に環境保護活動に生徒が主体的に取り組むように指導する。	環境委員が率先して調査や啓発活動に取り組めたか。			
	広報活動を充実させる	学校説明会を通して、学校全体として学力向上に取り組んでいることを紹介する。 学校公式ホームページ、Twitterを活用し、迅速な情報発信を行う。	学校説明会の生徒発表で、日常の学習習慣の大切さや学びの面白さを伝えるよう工夫できたか。 北稜高校の魅力をホームページやTwitterで迅速に発信できたか。			

評価領域 (分掌領域)	重点目標	具体的方策	評価基準	評価		進捗状況(成果と課題)
				項目	総合	
生徒指導	安心・安全な学校作りをする	教職員による年間7回の交通安全指導を実施する。また部活動員で構成された自転車安全利用推進員による自転車通学指導を年20回以上行う。1年生に対する早期の交通安全学習・ネットモラル指導をする。貴重品の自己管理を徹底させる。いじめを許さない体制を確立する。	教職員による年7回の交通安全指導が実施できたか。部活動員による自転車通学指導を実施させられたか。1年生の交通安全学習が実施できたか。 1年生に対するネットモラル指導が実施できたか。貴重品の管理の徹底を実施できたか。いじめ調査を年2回実施し、調査結果を教職員で共有して問題に対処できたか。いじめを許さない環境づくりができたか。			
	主体的活動の活性化を図る	生徒会活動・各委員会活動などの生徒の主体的な活動を指導し活性化させる。	生徒会・各委員会の年間の活動を高い意識で取り組ませることができたか。			
		部活動の新入生に加入率80%以上、全体の定着率90%以上を目指す。部集会・キャプテン会議を活用して部活動生徒への指導を充実させ、北稜高校のリーダーの自覚を持たせる。	新入生部活動加入率80%、全体の部活動定着率90%以上を達成できたか。部集会。キャプテン会議を計画的に実施できたか。部活動員が北稜高校のリーダーとして率先して動けるよう指導できたか。			
社会性・規範意識を育成する	身だしなみ指導及び遅刻指導の徹底を図り、またスマートフォンの適切な使用ルールを身につけさせることで基本的な生活習慣の確立と高校生としての自覚を促す。特に授業規律確保のためスマートフォンの始業～終業までの使用を制限するとともに校内では不必要な使用をさせないように指導する。	制服の正しい着用が定着したか。頭髮・装飾品等の指導を徹底して行うことができたか。朝の校門遅刻指導で遅刻生徒の状況が改善されたか。スマートフォンの始業～終業までの使用制限と校内での不必要な使用について指導を徹底することができたか。				
進路指導	高大接続改革に対応する	各教科において学力の3要素を伸長させる授業を展開する。学びの過程をポートフォリオに記録させる。大学入学共通テストや英語の外部検定試験などの情報を収集する。	教科会議や職員会議で高大接続改革に関して研究をし、授業の実践ができたか。			
	学力向上のための取り組みを行う	学年部と連携して、学習時間調査を定期的に行う。調査前だけではなく、平常時の家庭学習の習慣を定着させる。全学年に対して自習室の利用を促す。補習・土曜講座、学習合宿、模試の積極的な活用を促す。教科会議と協力をして、模擬試験の事前指導・分析行う。	平常時の自学自習時間が1・2年生で2時間、3年生は3時間行っているか。 補習・土曜講座の出席率が80%を超えているか。 学習合宿の参加者満足度が90%を超えたか。 模擬試験の分析会を定期的に行えたか。			
	キャリア教育を推進し、希望進路を実現させる	社会生活に必要な力を身につけさせ、進路や生き方について考えを深めさせる。 担任と進路指導部で協力して進路学習を行う。 進路通信等の発行を通じて、進路情報の提供を行う。	全教員が日常的にキャリア教育を意識した指導を行えたか。 各学年年間3回以上の進路学習を行い、生徒満足度が80%以上か。 進路通信を年8回以上発行できたか。 国公立大学と関関同立の合格者数40名以上、産近甲佛龍合格者数100名以上、学校紹介による就職率100%。			
学校保健 学校安全教育	健康実態の把握と生徒への援助	健康診断、保健室来室状況など各種情報をもとに、生徒の心身の健康状態を把握し、サポートする。	各種の情報を活用し、気になる生徒の心身の健康を早期にサポートできたか。			
	効果的な特別支援教育体制を確立する	特別支援の観点から支援が必要と思われる生徒の個別の指導計画を作成するとともに具体的な対応策を教員間で共有し、支援につなげる。 コーディネーターと学年担当者によるケース会議の定例化を図り、より一層生徒の状況把握に努める。	個別の指導計画による情報の共有化を図り、具体的な支援につなげることができたか。			
	校内美化・安全点検の推進	美化・安全点検を定期的を実施して、教育環境の整備・改善に努めるとともに、生徒の保健委員会・生活委員会共同でゴミの減量に取り組む。 掃除用具の管理の徹底を図るとともに、大掃除の際に円滑に行えるよう掃除用具を整備する。	校内美化の推進とゴミの分別・減量に取り組むことができたか。			
読書指導 視聴覚教育	知的好奇心を引き出すことに努める	・生徒の興味・関心を広げるように多様な分野の資料を備え、ニュースの発行をはじめその他のさらなる働きかけを行い、利用の増加を図る。 ・各教科の授業の成果を展示することにより、生徒により身近な図書館をめざす。	生徒の一人あたりの貸出冊数や図書館を利用する生徒の割合を増やすことができたか。			
	探究学習の展開に寄与する	各教科の学習に必要な情報・資料の提供に努め、図書館と各教科の学習活動との一層の連携を図る	授業での使用機会が増加したかどうか。特別な特集コーナーの設置が増加したかどうか。			
	生徒の自主活動を推進する	図書委員会活動をさらに推し進め、生徒が自ら主体的に取り組むことができるようになるため指導を充実させる。	図書委員が企画・運営に携わり活動内容を充実させることができたかどうか。			
教育環境整備	安心・安全な教育環境の更なる充実	施設・設備の整備を推進し、教育環境の充実を図る。	教育環境の整備・充実が図れたか。			
学校関係者評価委員会による評価						
次年度に向けた改善の方向性						